

ヤマハ株式会社
2018年3月期
第1四半期決算説明会

2017年 8月 2日



決算概要

- 売上高は、対前年同期28億円（内為替影響+9億円）増収の1,012億円
営業利益は、対前年同期▲2億円（内為替影響▲18億円）減益の116億円
 - 楽器事業は、前期4Qの好調な販売状況の影響もあり、今期1Qの北米、欧州市場は落ち着いた滑り出し。中国市場は好調を継続し、全体では前年同期並みの売上
 - 音響機器事業も、実質二桁成長を達成した前年同期から成長モメンタムを継続
 - その他の事業は、電子部品の好調な推移等で、対前年同期増収増益
- 当期利益は、前年同期に繰延税金資産135億円の計上があった影響で対前年同期では減益

2018/3期 1Q業績概要



(億円)

	17/3	18/3	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	984	1,012	+2.9%	1,020	▲0.7%
営業利益 (営業利益率)	118 (12.0%)	116 (11.4%)	▲1.7%	120 (11.8%)	▲3.5%
経常利益 (経常利益率)	115 (11.6%)	112 (11.1%)	▲2.1%	115 (11.3%)	▲2.4%
当期利益※ (当期利益率)	225 (22.9%)	93 (9.2%)	▲58.5%	100 (9.8%)	▲6.7%

為替レート (円)

売上高 (期中平均)	US\$	108	111	110
	EUR	122	122	120
利益 (決済レート)	US\$	111	111	110
	EUR	126	121	120

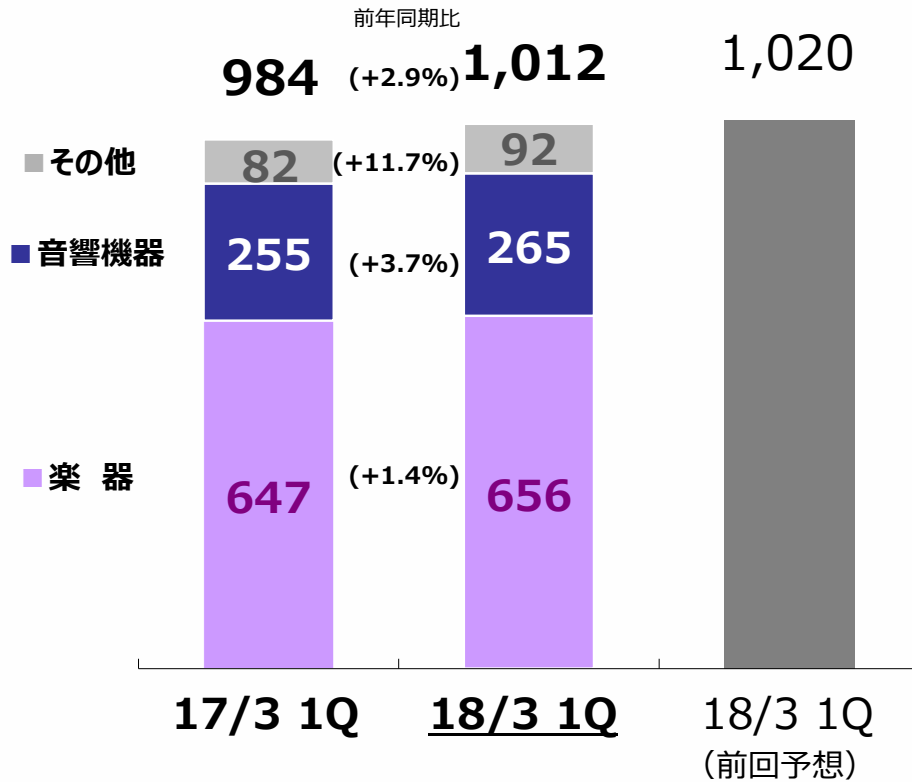
※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」

●前回予想は2017/5/1 発表

2018/3期 1Q事業別業績

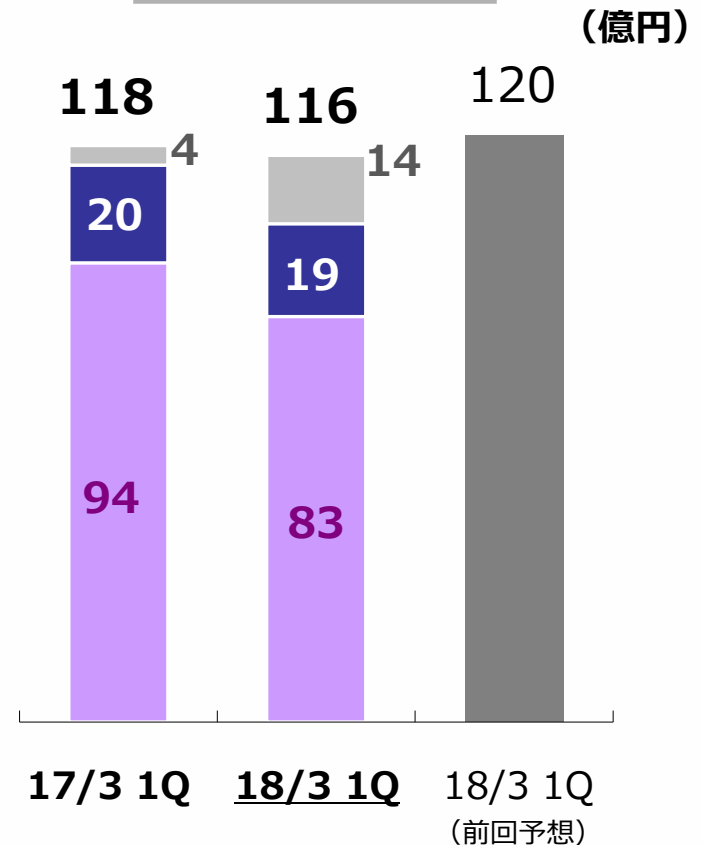


売上高



為替影響額 (億円)	
前期比較	+9 楽器 +6 音響機器 +4
前回予想比較	+10 楽器 +6 音響機器 +4

営業利益

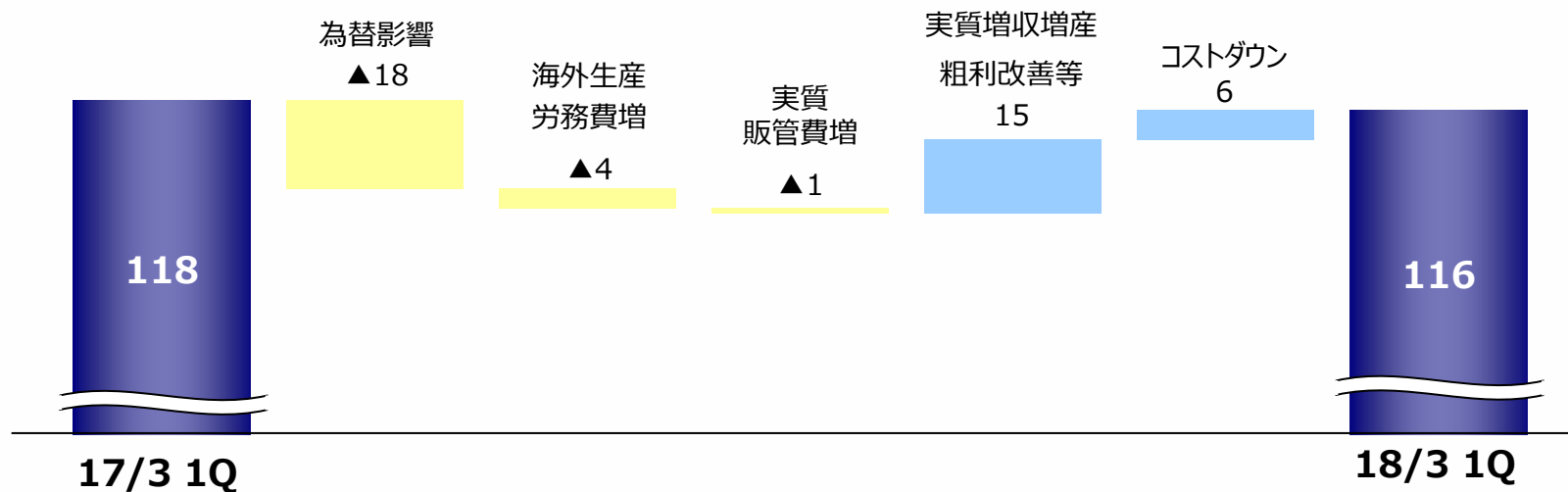


為替影響額 (億円)	
前期比較	▲18 楽器 ▲14 音響機器 ▲4
前回予想比較	+1 音響機器 +1

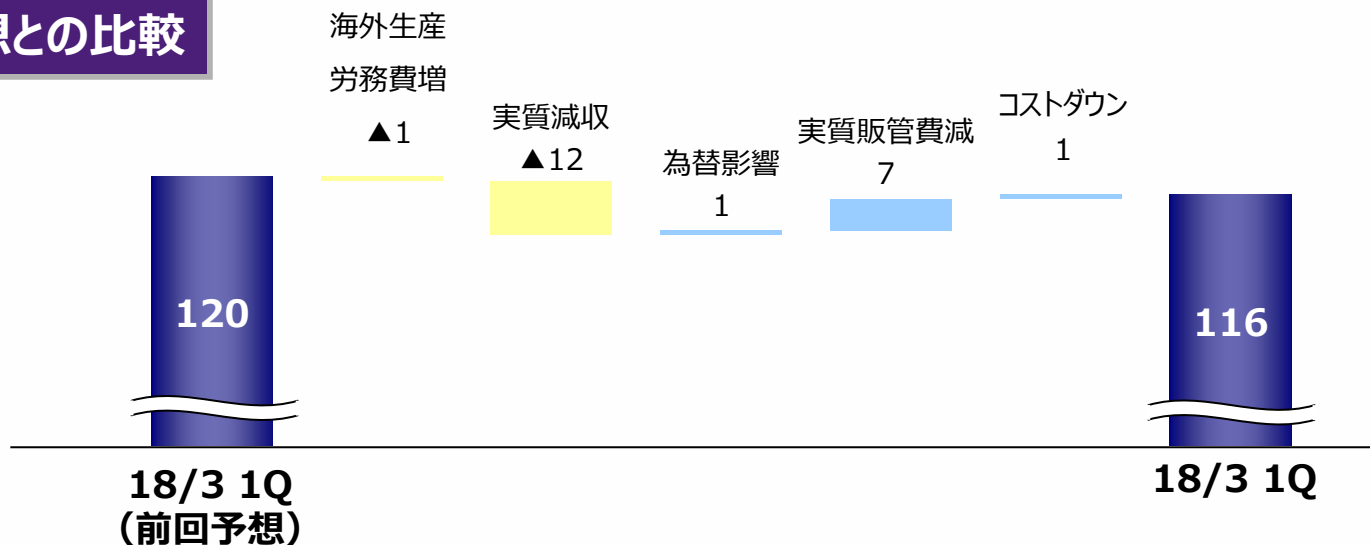
2018/3期 1Q営業利益増減要因

前期との比較

(億円)



前回予想との比較



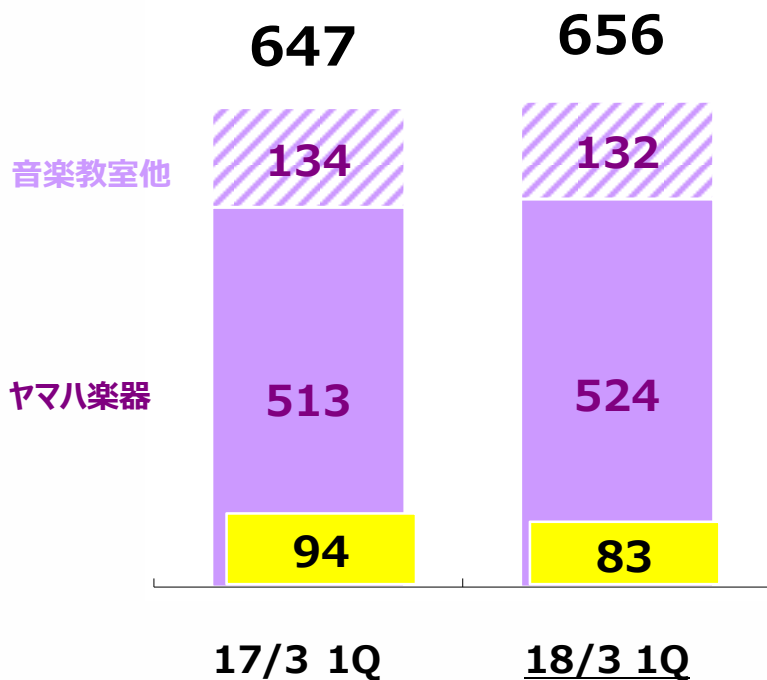
● 前回予想は2017/5/1 発表

1Q

■ 売上高

■ 営業損益

(億円)



1Qの状況

- ・対前年同期増収減益
- ・ピアノは中国市場が単価上昇もあり好調継続、全体でも堅調
- ・電子ピアノ新商品導入は市場により時間差が出ており本格効果は2Q以降
- ・管楽器は、日本セルスルー及び北米が学校向け販売を中心に好調
- ・損益は、在庫未実現損益への為替影響も大きく減益

■ TOPICS

- ・電子ピアノ CLP600シリーズの市場導入
(アクション機構を大幅刷新した新鍵盤搭載)
- ・中国市場 ピアノ以外の楽器の対前年同期実質成長率
(電子ピアノ 30%超 ギター30%超 管楽器40%超)

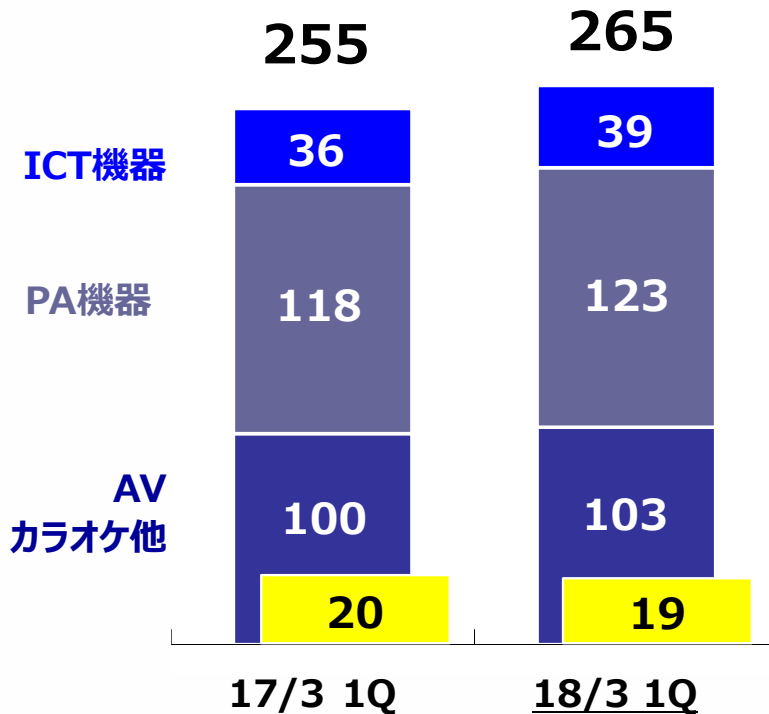
音響機器事業 1Qの状況

1Q

■ ■ ■
売上高

■ 営業損益

(億円)



1Qの状況

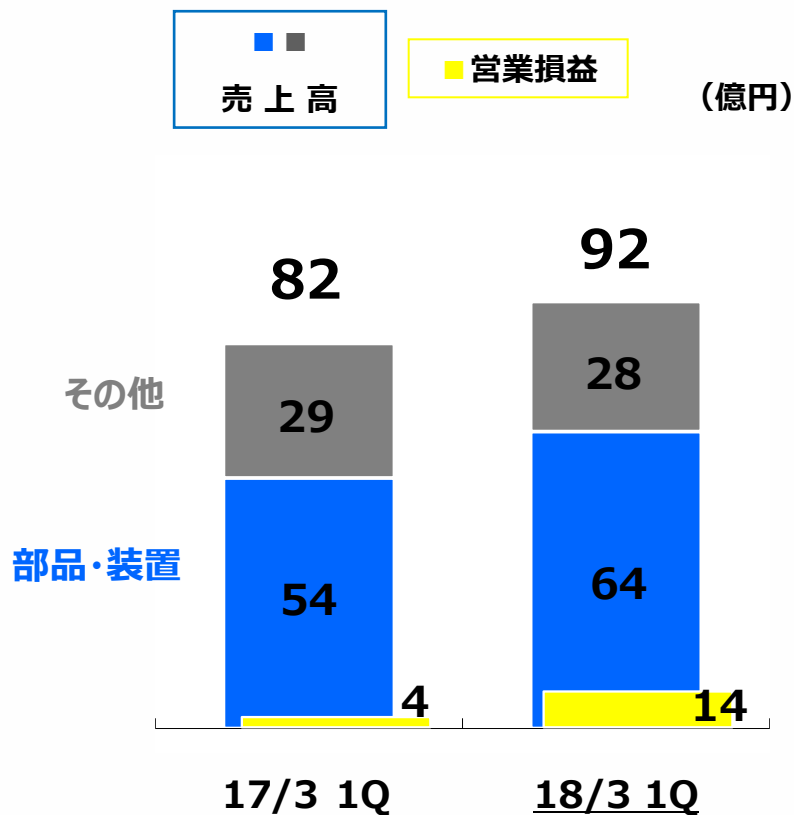
- ・対前年同期増収、損益横ばい
- ・AV、PA機器共に、実質二桁成長を記録した前年同期から成長継続
- ・PA機器は、中国・新興国市場での販売好調も国内音響設備工事が前年同期から減収
- ・ネットワーク機器、コミュニケーション機器は商品領域の拡大・サービス拡充で堅調な推移
- ・損益は、対前年同期では為替影響除けば実質増益

■ TOPICS

- ・ネットワークオーディオ「Music Cast」の欧米市場での商品展示等露出拡大

その他の事業 1Qの状況

1Q



1Qの状況

- ・対前年同期増収増益
- ・電子部品は、アミューズメント用音源を中心に好調に推移、自動車用内装部品等も堅調
- ・ゴルフ用品は、新商品の好調継続
- ・損益は、電子部品 ゴルフの好調な販売に加え、リゾートの構造改革効果もあり、対前期大幅増益

* 部品・装置売上は電子部品 自動車用内装部品 FA機器等の合計額です

2～4Qの見通し

- 楽器事業は、電子楽器新商品の本格導入への注力などを通じ、期初の計画を堅持
- 音響機器事業は、1Qがほぼ計画通りに推移、PA機器を中心に着実な推移を想定
- その他の事業は、電子部品を中心に着実な推移を想定

- 外部調達電子部品等のコストアップで、コストダウン計画数値の未達を想定

- 2Q以降の為替前提は期初設定のレート USドル 110円 ユーロ 120円を
USドルは変更せず、ユーロのみ125円に変更する。

通期の業績見込み

- 1Qの売上高、営業利益が、概ね期初の予想水準であったことに加え
今後の市況の見通しも堅持していく中、為替前提の変更に伴い
前回予想の売上高 4,270億円 営業利益485億円を
売上高 4,320億円 営業利益500億円と修正する。

2018/3期 通期業績予想



(億円)

	17/3	18/3予想	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	4,082	4,320	+5.8%	4,270	+1.2%
営業利益 (営業利益率)	443 (10.9%)	500 (11.6%)	+12.9%	485 (11.4%)	+3.1%
経常利益 (経常利益率)	449 (11.0%)	500 (11.6%)	+11.3%	485 (11.4%)	+3.1%
当期利益※ (当期利益率)	467 (11.4%)	390 (9.0%)	▲16.5%	390 (9.1%)	-

為替レート (円)

売上高 (期中平均)	US\$	108	110	110
	EUR	119	124	120
利益 (決済レート)	US\$	108	110	110
	EUR	121	123	120

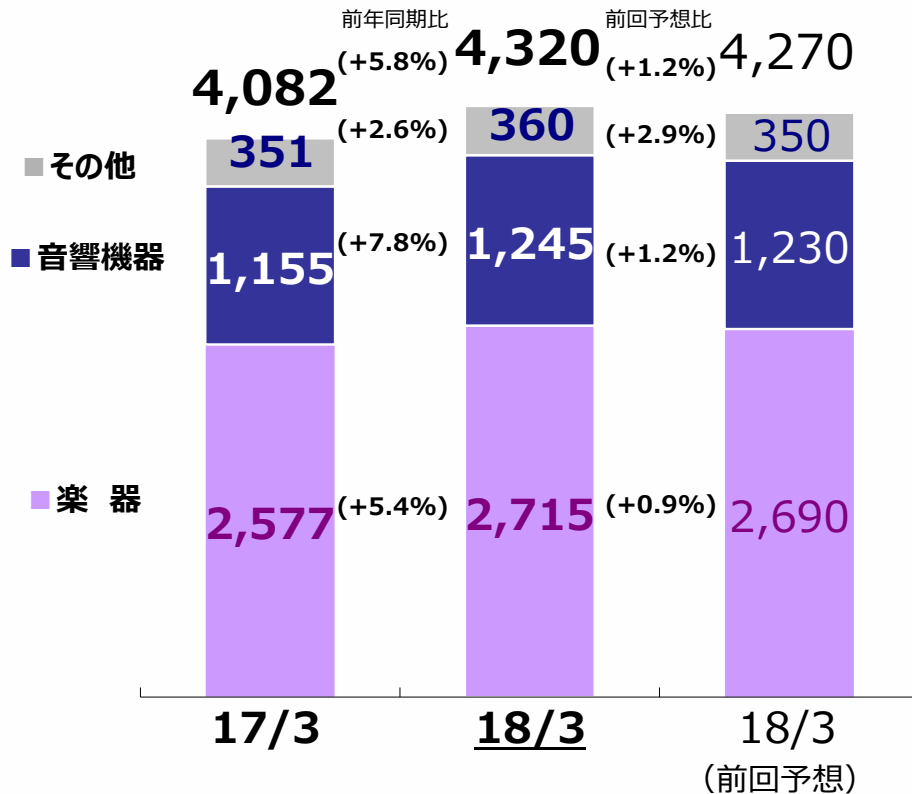
※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」

● 前回予想は2017/5/1 発表

2018/3期 通期事業別業績予想

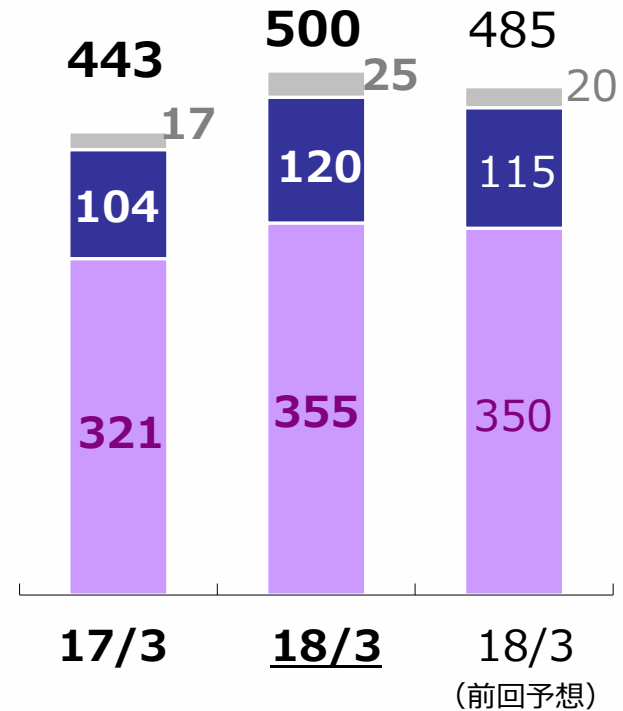


売上高



為替影響額 (億円)			
前期比較	+74	楽器	+48
		音響機器	+25
		その他	+2
前回予想比較	+37	楽器	+24
		音響機器	+13

営業利益

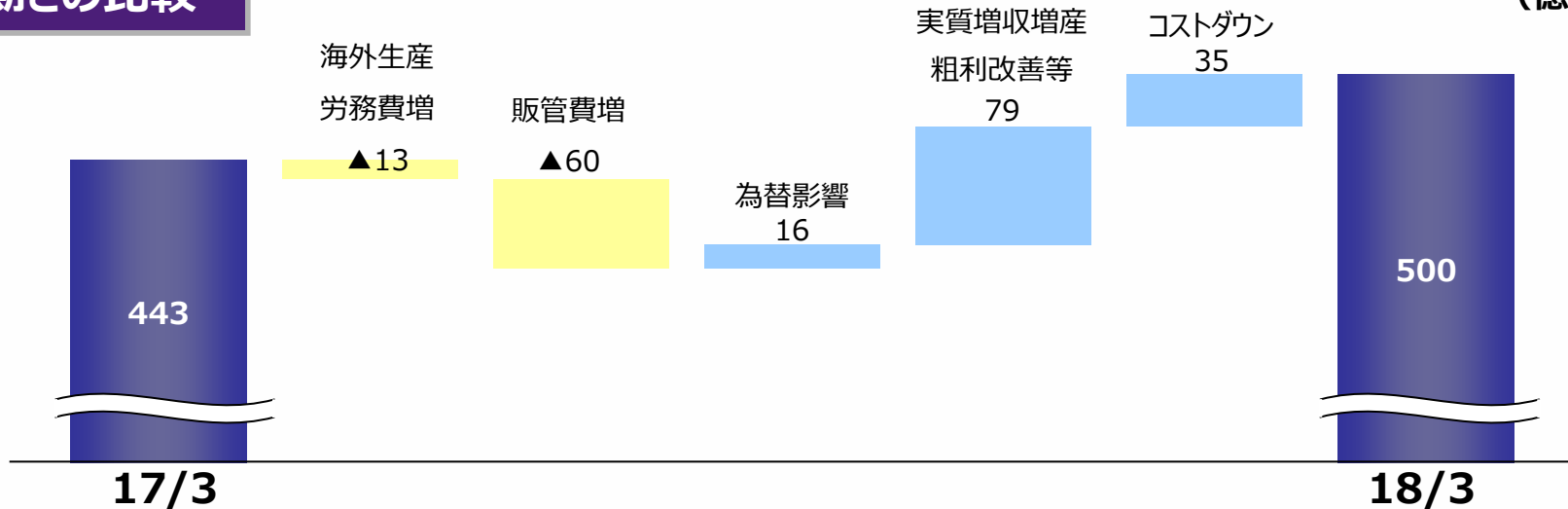


為替影響額 (億円)			
前期比較	+16	楽器	+11
		音響機器	+5
前回予想比較	+20	楽器	+13
		音響機器	+8

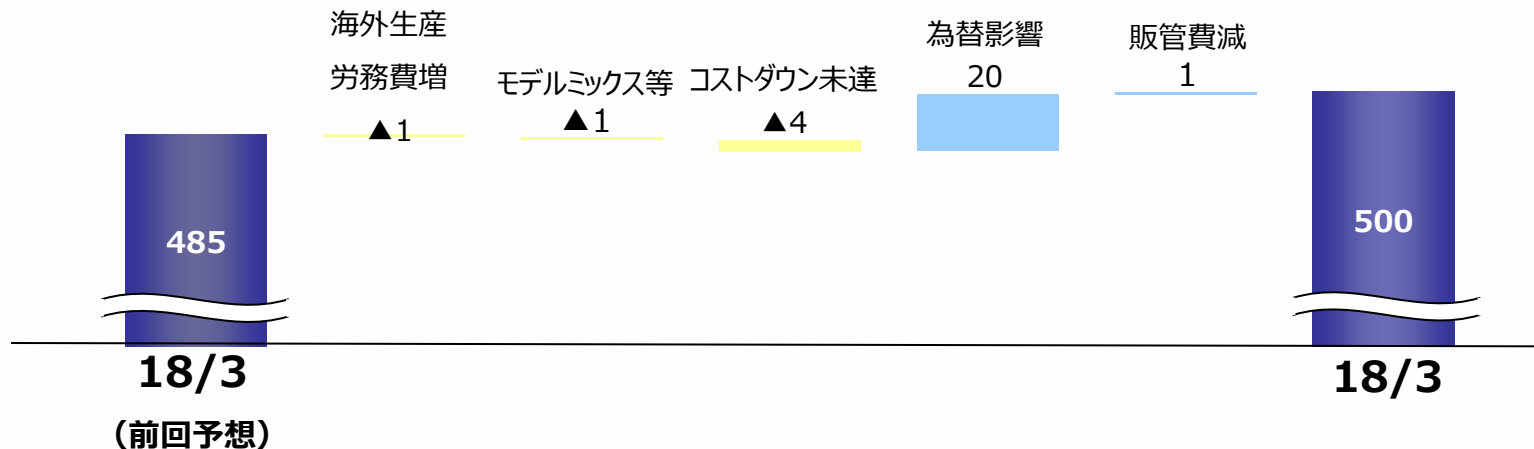
2018/3期 通期営業利益予想増減要因

前期との比較

(億円)



前回予想との比較



(前回予想)

通期

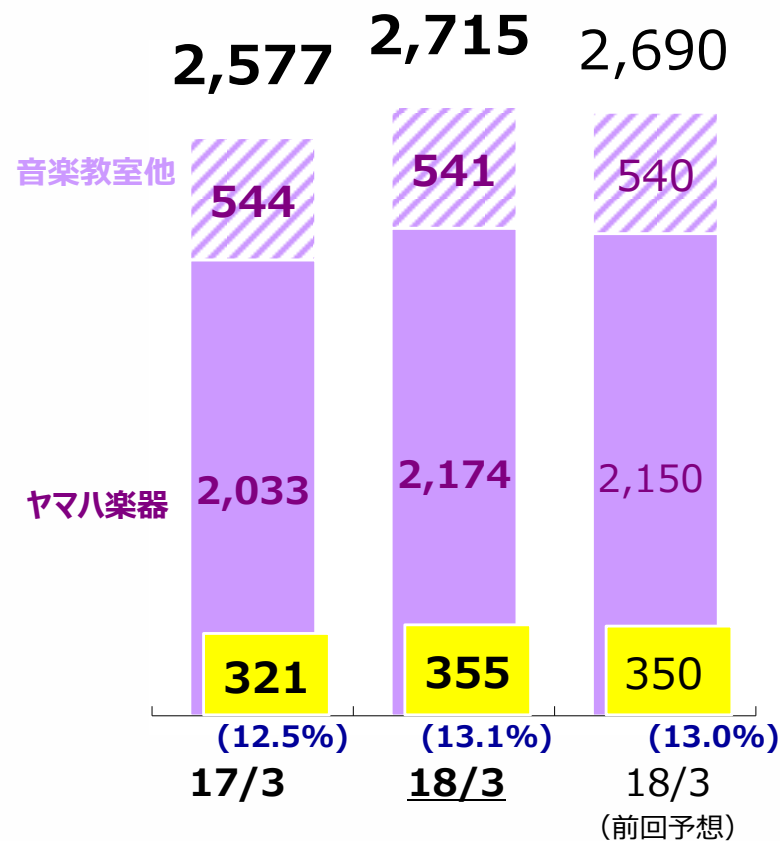
■ 売上高

■ 営業損益

(億円)

通期予想

- ・対前期 対前回予想共に増収増益を予想
- ・予想の修正は為替前提の変更が主要因
- ・市場別には中国の実質二桁成長継続と北米、欧州市場の1Q状況からの回復を想定
- ・商品別には、電子楽器の新商品本格導入
ギターの全市場での増収を想定



* ()内は営業利益率

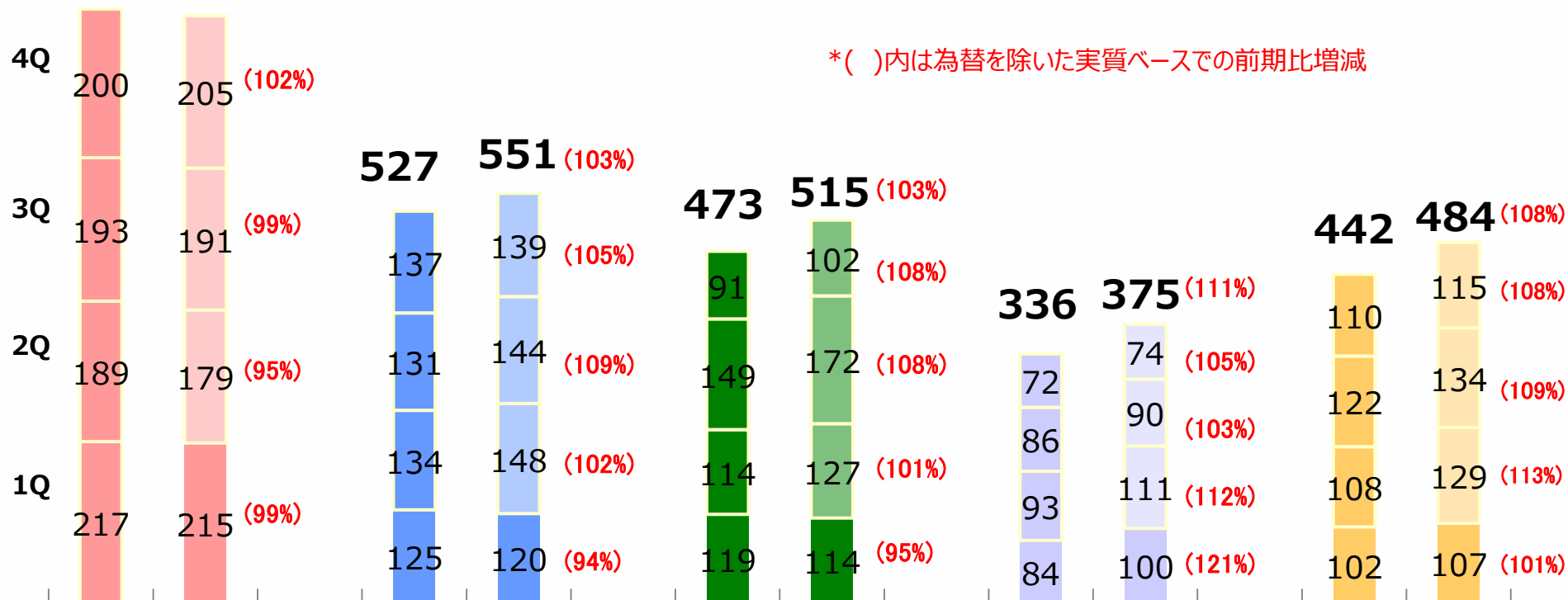
楽器事業 (地域別の販売予想) (ソフト、音楽教室等を含む)



全市場計 通期売上高 **2,715億円 (104%)**

(億円)

798 790 (99%)



* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

17/3 18/3

17/3 18/3

17/3 18/3

17/3 18/3

17/3 18/3

日本

北米

欧州

中国

その他

音響機器事業 (予想)

通期

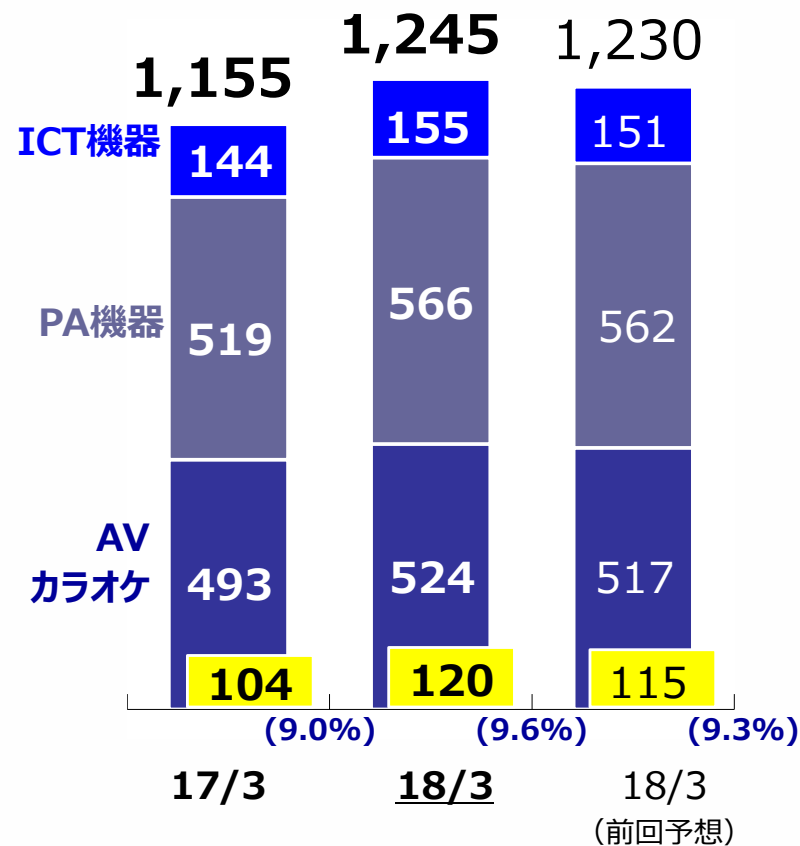
■ ■ ■
売上高

■ 営業損益

(億円)

通期予想

- ・対前期、対前回予想共に増収増益を予想
- ・AV機器は、堅調な1Q実績を継続し、ネットワークオーディオ機器の着実な成長を想定
- ・PA機器は、業務用音響機器を中心に、北米市場の挽回など、先進国市場での成長を想定



* ()内は営業利益率

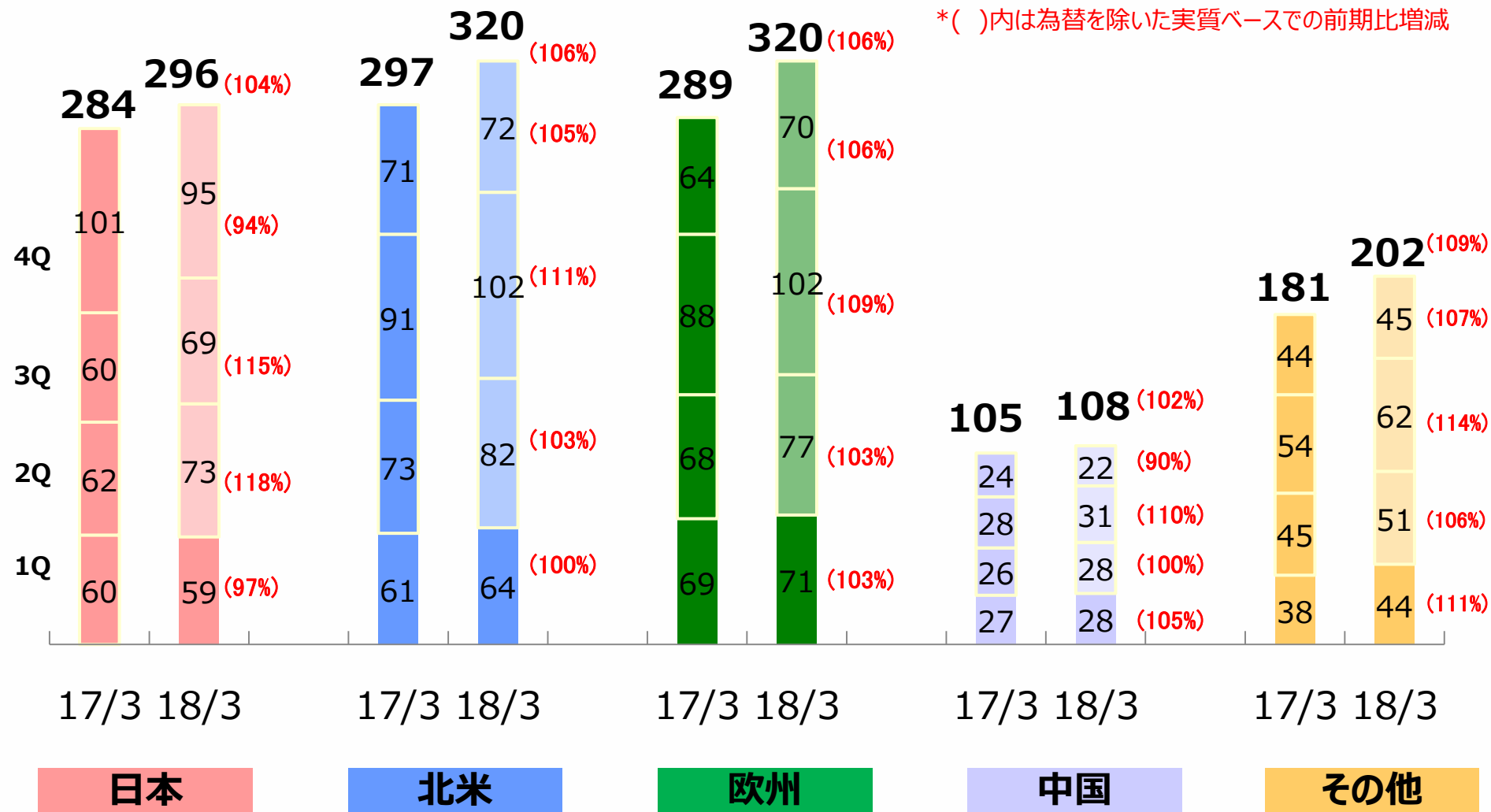
音響機器事業（地域別の販売予想）



全市場計 通期売上高 **1,245億円 (106%)**

(億円)

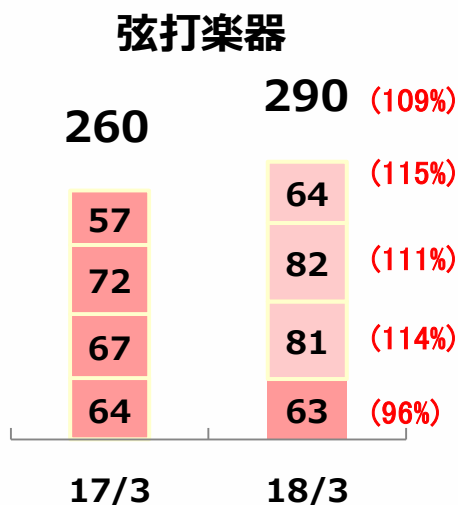
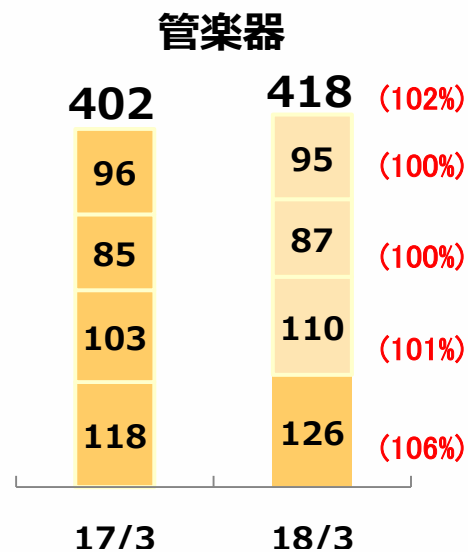
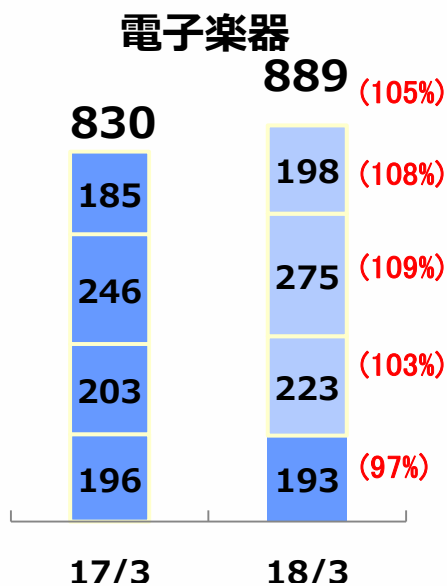
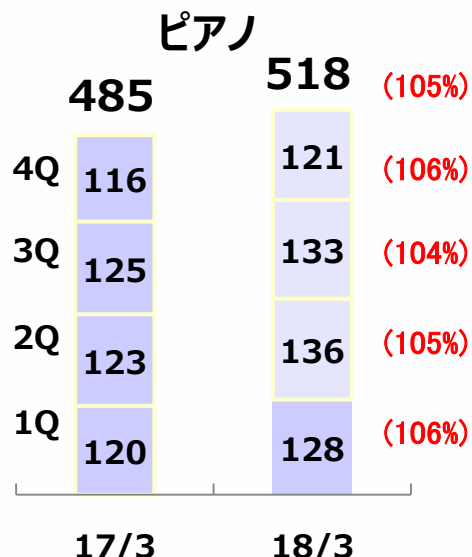
* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



楽器・音響機器事業（主要商品別販売予想）

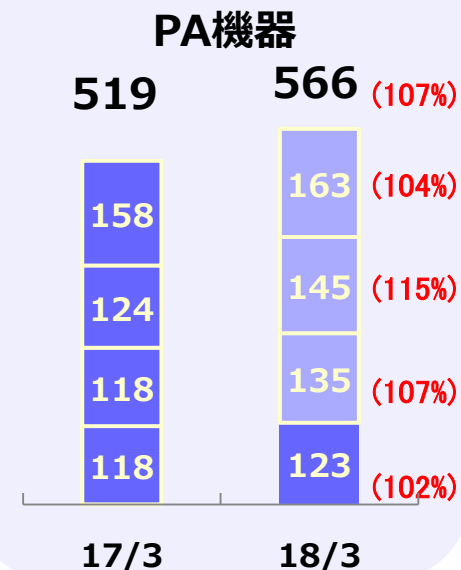
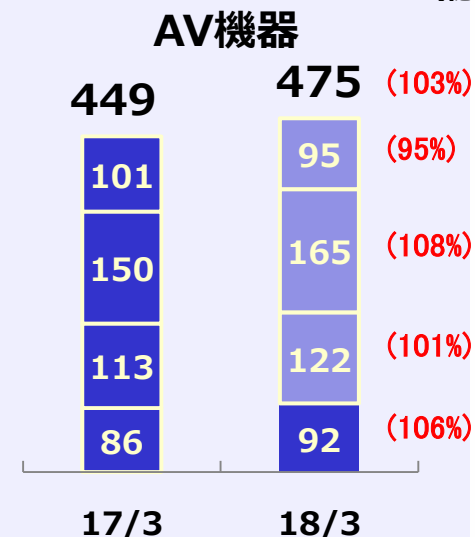


楽器事業



音響機器事業

(億円)



* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

その他の事業 (予想)

通期

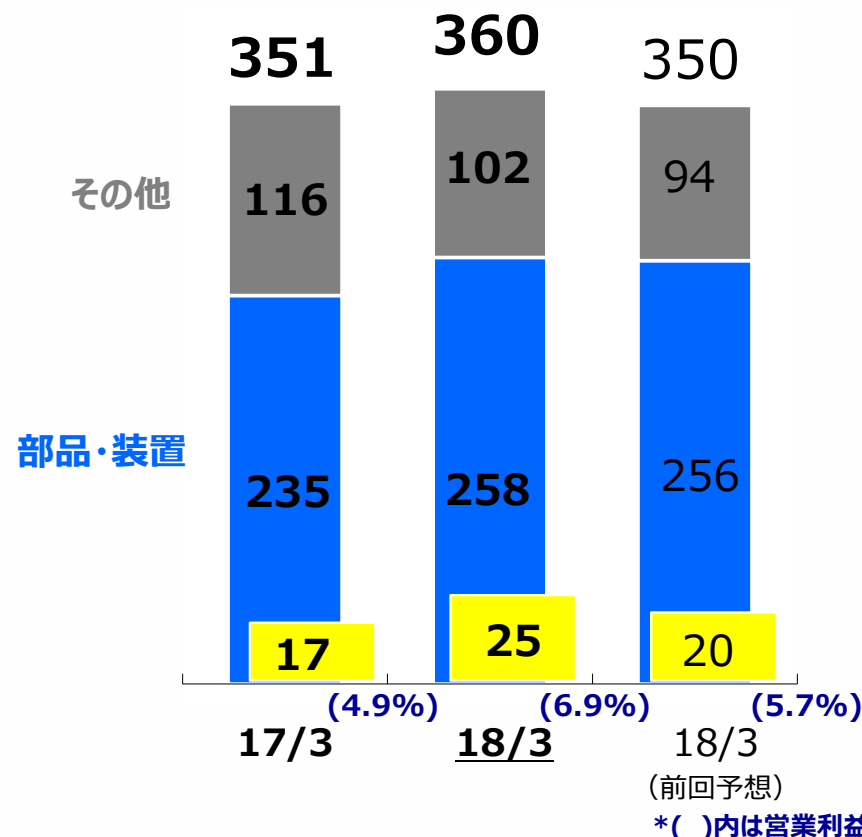
■ ■
売上高

■ 営業損益

(億円)

通期予想

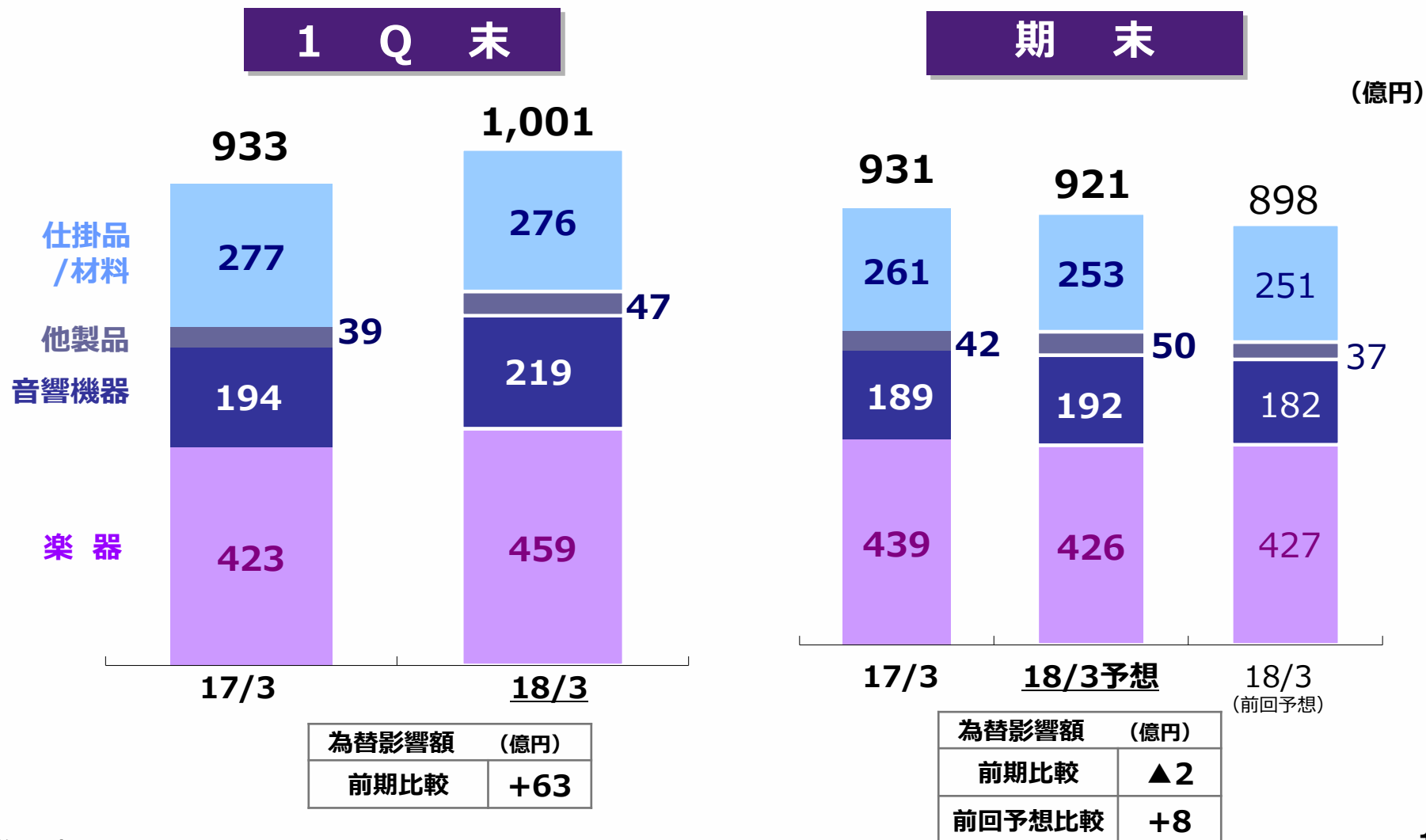
- ・対前期、対前回予想共に増収増益を予想
- ・電子部品が通期で堅調に推移するとともに自動車用内装部品 FA機器の対前期増収想定
- ・ゴルフは通期でも堅調な推移を想定
- ・損益面では、各事業の堅調な販売により対前期増益



* ()内は営業利益率

棚卸資産

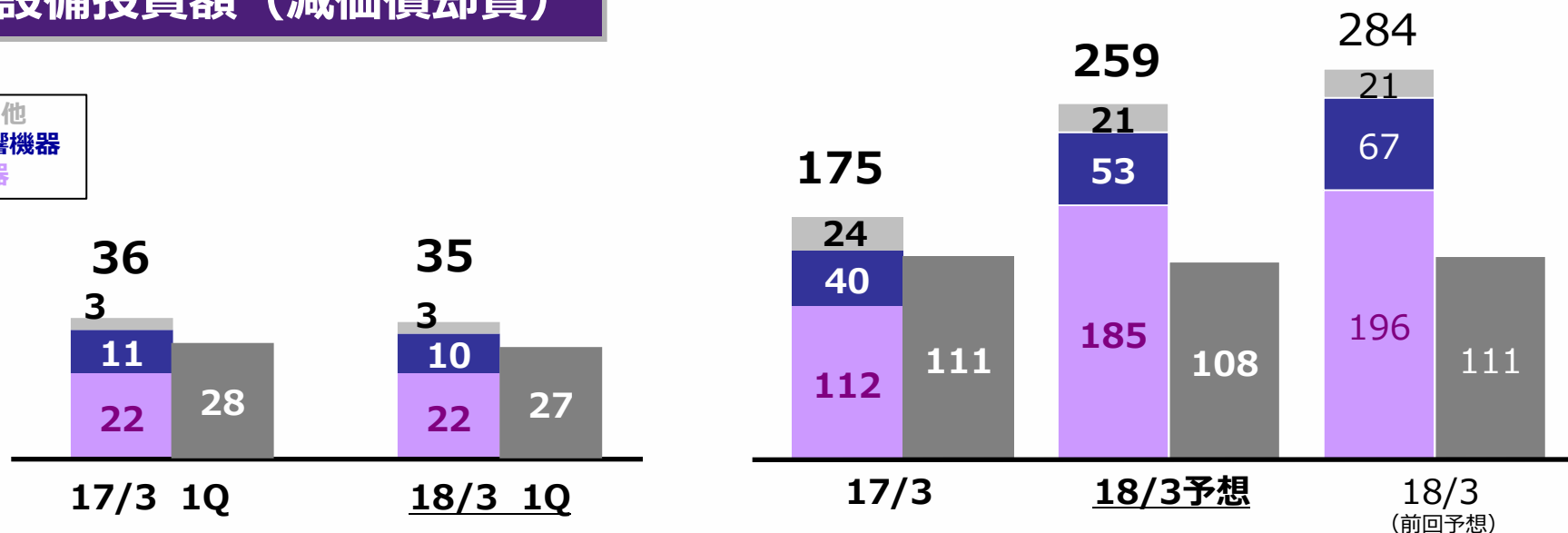
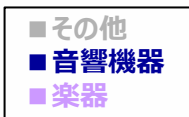
- 1Q末在庫は、1,001億円 為替影響+63億円もあり、前期同期末とほぼ同水準
- 18/3期末在庫は、2～4Qでの順調な販売を想定し、921億円を予想



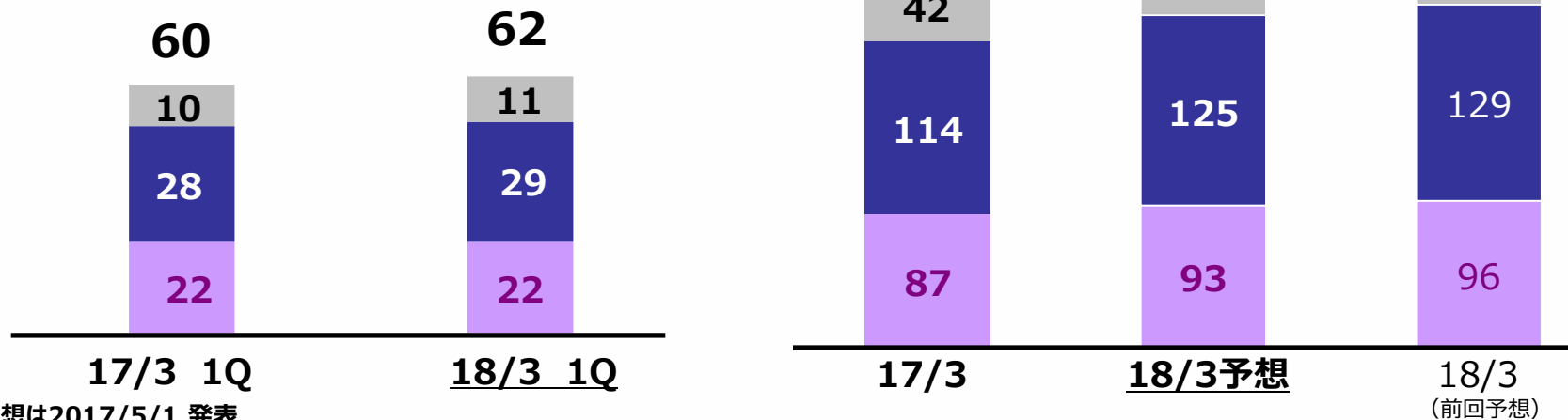
設備投資額・減価償却費/研究開発費

設備投資額 (減価償却費)

(億円)



研究開発費



● 前回予想は2017/5/1 発表

貸借対照表



(億円)

	1Q末			期末予想		
	16/6末	17/6末	増減	17/3末	18/3末	増減
現預金	847	1,027	+180	1,059	1,186	+127
売上債権	450	510	+60	498	520	+22
棚卸資産	933	1,001	+68	931	921	▲10
他流動資産	231	248	+17	239	261	+22
固定資産	1,952	2,613	+661	2,497	2,752	+255
資産計	4,413	5,399	+986	5,224	5,640	+416
仕入債務	189	189	0	178	175	▲3
借入金	141	180	+39	112	116	+4
他負債	1,101	1,215	+114	1,260	1,315	+55
純資産計	2,982	3,815	+833	3,674	4,034	+360
負債純資産計	4,413	5,399	+986	5,224	5,640	+416

付属資料

2018/3期 1Q営業外損益、特別損益



(億円)	17/3 1Q	18/3 1Q	18/3 1Q前回予想
営業外損益			
金融収支	4	4	2
その他	▲7	▲8	▲7
計	▲3	▲4	▲5
特別損益			
固定資産処分損益	2	0	0
その他	▲4	▲2	0
計	▲2	▲2	0
法人税他			
法人税等	22	21	28
法人税等調整額	▲135	▲5	▲13
非支配株主に帰属する損益	1	1	
計	▲112	17	15

2018/3期 通期営業外損益、特別損益

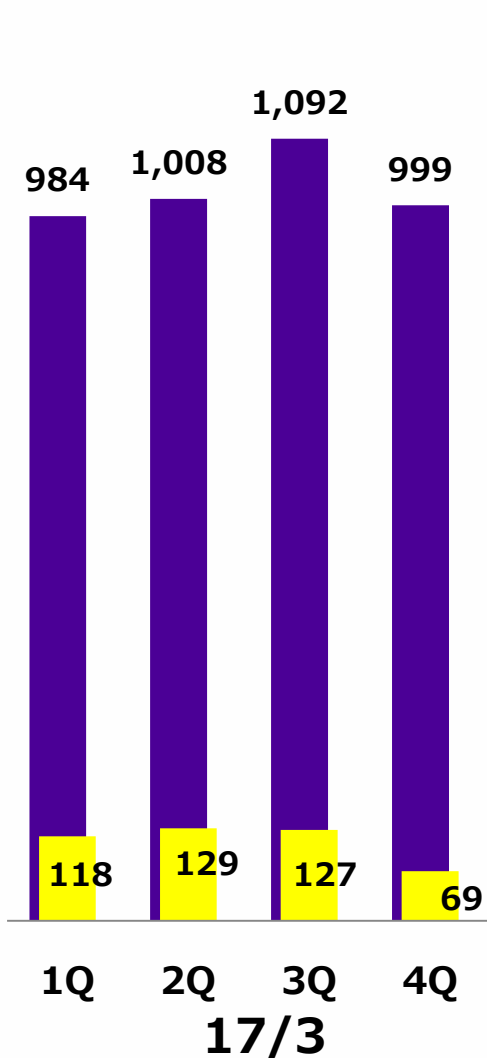


(億円)	17/3 通期	18/3 通期予想	18/3 通期前回予想
営業外損益			
金融収支	35	33	31
その他	▲29	▲33	▲31
計	6	0	0
特別損益			
固定資産処分損益	35	▲2	▲1
その他	▲55	2	1
計	▲20	0	0
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;"> 構造改革費用 ▲30 減損損失 ▲6 退職給付DC移管 ▲9 Revolabs のれん一時償却 ▲15 </div> <div style="margin-left: 10px;"> ▲55 </div> </div>			
法人税他			
法人税等	87	121	120
法人税等調整額	▲127	▲11	▲24
非支配株主に帰属する損益	2	0	0
計	▲38	110	95

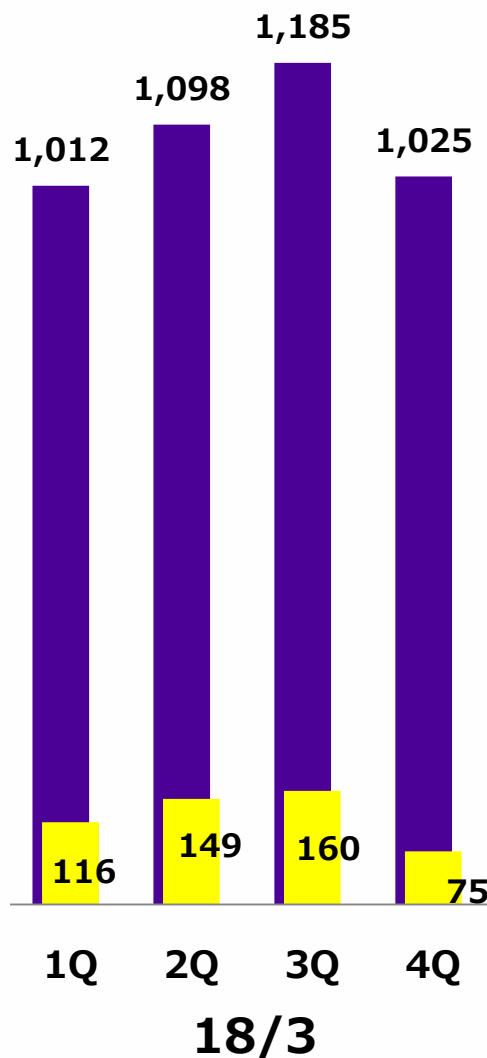
四半期別売上高／営業利益



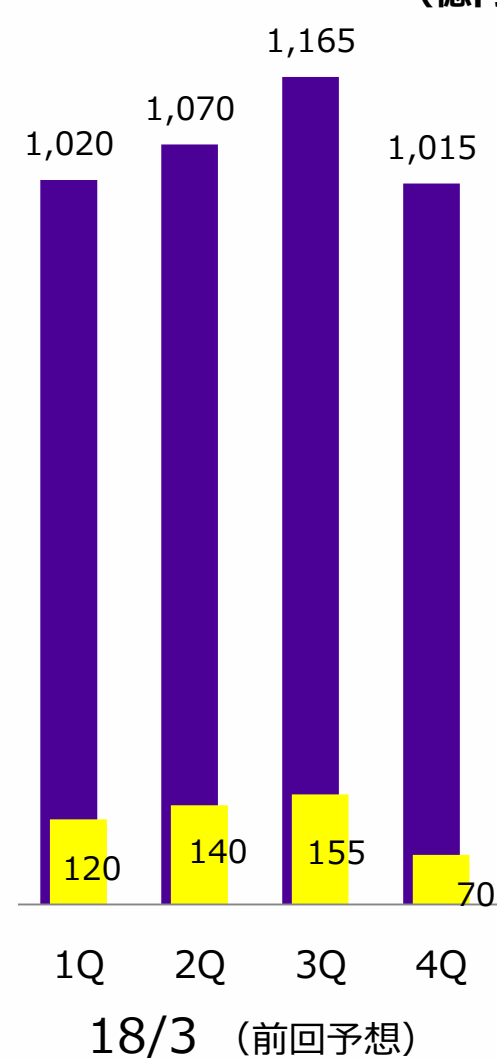
(億円)



売上高 (通期)	4,082
営業利益 (通期)	443



売上高 (通期)	4,320
営業利益 (通期)	500



売上高 (通期)	4,270
営業利益 (通期)	485

● 前回予想は2017/5/1 発表

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。